



### 少年三段の部 優勝者

この度、少年三段の部の優勝者として頂き、心から嬉しく思います。今でもまだ夢のように信じられませんが、今までご指導下さった先生、両親、妹たちのおかげだと感謝しています。ありがとうございます。

私が安来節を習い始めたのは小学校一年生の時でした。それから毎年全国大会に出場してきました。入賞するととても嬉しく、全国大会に行くのが楽しみでした。上級になるにつれて、唄の難しさを感じ、一生懸命練習しました。

今年の九月九日に松山支部創立三十周年記念大会がありました。記念すべき年に優勝させて頂き、私にとって記念の年になりました。来年は中学二年、少年最後の年になります。また、優勝出来る様に一生懸命がんばります。そしてまた家族五人で安来節全国大会に出場出来る様にならばと思います。本当にありがとうございます。



河本 鼓実 (松山支部)

唄

### 師範の部 優勝者

今回の優勝にあたり、支えてくれた家族がいたこと、競い合い、励まし合える仲間がいたこと、そして何より師匠である丸瀬一宇先生と諸先輩方の指導があったことに心から感謝しています。

この度、素晴らしい賞を取れたことを誇りに思い、これを新たなスタートとし、これからは唄に色をつけること、感情を込めた唄がうたえるように、そしていつか『すごいなく』『もう一度聞きたいな』と思っただけのような唄い手になるよう稽古を重ねたいと思います！

最後になりますが、応援してくださいました皆様、ほんとうにありがとうございます。



松崎 祥江 (本部道場)

唄

今年が母が初めて見に来てくれていて、その中で優勝出来た事に母はすごく喜んでくれました。私も少年最後の年で優勝出来た事は嬉しかったですし、改めて民謡を続けてきてよかったと思いました。ご指導してくれた師匠やいつも応援してくれる方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

毎年全国大会に来て、いろんな人の唄や三味線などを見て、とても勉強になり、もっと上手になりたいという気持ちがとても湧いてきます。これからは新しい事に挑戦して幅広くいろんな事を学びたいと思っています。安来節とは違う民謡にも触れてみたいです。それ以来年は大人の部で今の実力で通用出来ないの、今まで以上に練習していきたいと思えます。今後とも応援よろしく願います。



中尾 美咲 (関西支部)

絃

今年から新たに過去の優勝者も出る様になり、予選、本大会と参加出来るのをとてもワクワクしていました。

今回、絃、鼓と優勝をし、発表後師匠の丸瀬一宇先生、家族、諸先輩方、仲間を始め、沢山の方々にお祝いの言葉を頂き、改めて『皆さんに支えられながら自分は安来節をやっているんだ』と実感しました。

これを機に気持ちを新たに勉強していきたいと思えますので、師匠、諸先輩方、皆さん、これからもご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



一宇川 耕士 (本部道場)

絃・鼓

今年の全国大会で僕は焦っていました。なぜかと言っと、部活ばかりしていて安来節の稽古をあまり出来ていなかったからです。けれど、他の人に迷惑をかけてはいけないと思ひ、気持ちを切り替えて一杯頑張つて、いつも言われている「安来節を楽しむ！」を思い出し、出番のぞみました。そして、結果発表の時に「優勝」と言われ、とてもうれしかったです。

僕は、あと一年少年の部なので来年も全国大会で優勝したいです。

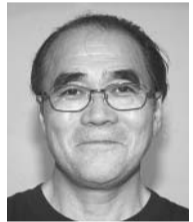


安藤 龍希 (神戸支部)

鼓

「師範、踊りの部優勝七十六番深田英治さん」と審査発表を聞き、ドキッとしました。師範の部、踊り優勝という名誉をいただき、心から喜びを感じています。今まで御指導下さった仁多支部の富田とみお支部長さん、教室の皆さん、三代目出雲愛之助先生、また大東支部の出雲勝之助支部長さん、大東の諸先輩、安来節保存会の皆さんに厚く御礼を申し上げます。

私は安来節保存会仁多支部に入会して十九年目になります。唄、絃と習い始め、絃で二回入賞しました。八年前に出来ず、踊りだと思ひ、大東の踊りの教室に通いながらになり、昨年師範昇格出来ました。今年書初めでは『執念優勝』と書き、優勝出来たのも二回大東の踊りの教室で三代目出雲愛之助先生、また諸先生に細かく御指導して頂いた結果だと思ひます。これからは少しでも上を目指して稽古する事で皆さんに恩返しをしていきたいと思っています。今後とも御指導の程、宜しくお願いします。最後におやじさん、奥さん有難う。



深田 英治 (仁多支部)

踊

僕は小学校一年生の時から安来節に興味を持ち、どじょうすくいを始めました。

最初は楽しんでやっていたけれど、安来節全国優勝大会に出場してみると最初は優勝できず悔しさが込み上げてきました。どじょうすくいをしている悔しさが込み上げてきた事が無く、今度こそ優勝してやると思い練習してきましたが、五回出場のうち、二級、一級、初段では入賞すらできませんでしたが、二段の時、初めて三位に入賞する事ができ、入賞した事で余計に優勝したくなり、また優勝する事ができ、三段という階級で優勝した時が最高でした。優勝した時はこれまでもあじわった事がないほどうれしかったです。

これまでたくさんの方の御指導、御声援で今回優勝する事ができました。本当にありがとうございます。



杉原 章仁 (本部道場)

踊

### 銭太鼓の部 優勝チーム

神戸支部の皆さん



念願の優勝！本当に嬉しく思います。濱崎先生に憧れ、濱崎流銭太鼓を打つにあたり、技だけではなくメンタル面など、沢山の事を御指導下さり、ありがとうございます。御座いました。

今回「一人が皆の為に！皆が観て下さる皆様の為に！を心掛け、ミスを恐れず楽しんで一つになろう」と稽古、本番と取り組んで参りました。応援の練習をし、共に安来まで来て下さった支部の皆様、そして支部を越えて応援してくれた友、先生方々、感謝の気持ちで一杯です。何よりも黙って見守って下さった西村先生、ありがとうございます。

未熟な私共、皆様の御指導、これからもよろしく願います。本当にありがとうございます。

代表 安藤 崇

### 団体の部 優勝チーム

本部道場の皆さん



この度は優勝という最高の賞をいただきまして、ありがとうございます。今回選ばれた五人は、それぞれが、それぞれの舞台で鍛え上げた安来節をあまり時間の取れないなか、団体練習を通して五人が心をひとつにして優勝大会の舞台へと準備をして参りました。

当日も一宇川耕士さんの絃、吉野和夫さんの鼓の音を聴き、そして松崎祥江さん、永田美由紀さんの歌声を聴いて、練習と変わらない気持ちで緊張することなく、気負うこともなく、集中して舞台上に臨めたことが最高の結果につながったのだと思います。

今回も練習の時から熱心に指導していただきました本部道場の先生方に感謝を申し上げます。ともに当日、応援くださいました多くの仲間、そして本部道場の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

代表 角 雅宏

### 事務局からのお知らせ

会報安来節第35号の記事に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

〔訂正〕

P3 私と安来節

渡部 二郎さん (松江支部)

1行目

昭和三十一年、八年頃  
昭和二十七年、八年頃